

近江ちいろば会

水口地区に小規模多機能型居宅介護事業所を開設。今後の成長の柱として育成する

	2023年度	2022年度	前年比
サービス活動収益計	855,236,345	805,814,853	106.1%
人件費	587,618,005	539,860,155	108.8%
事業費	87,888,495	79,827,488	110.1%
事務費	59,975,873	69,694,581	86.1%
サービス活動費用計	769,472,275	714,377,844	107.7%
サービス活動増減差額	85,764,070	91,437,009	93.8%

成果	反省
①地域貢献・連携 ・水口地区に小規模多機能型居宅介護事業所開設 ・認知症講演会開催 ・警察との連携による行方不明時の早期捜索の実現 ②採用、定着 ・採用費用を770万円から460万円に低減 ○事業所開設による人員増も、採用費用の低減を実現	・採用に対する紹介会社への高い依存 ・滋賀県平均並みの離職率 ・次世代の管理者候補育成が必要 ・外国人職員の育成不足 ・赤字事業所が撲滅できていない

●離職要因分析

1. 高齢、出産・介護、試用期間満了を除いた離職者割合離職者数 22名(9.6%) となり、全国平均以下
内、夜勤専従は6名と多く、Wワークが忙しくなったことが要因
2. 今後分析が必要な退職要因
他業種への転職、人間関係、法人との方向性の違いが計10名と多く、今後対策が必要

	全体	内正職員	全体割合	正職員割合
自己都合	6	3	16%	33%
高齢による身体的負担	(4)	0	11%	0%
職務の履行拒否	4	1	11%	11%
他業種への転職	6	2	16%	22%
出産・育児・介護	(6)	0	16%	0%
人間関係	3	2	8%	22%
法人との方向性の違い	1	1	3%	11%
能力課題	2	0	5%	0%
試用期間満了	(5)	0	14%	0%
合計	37 (22)	9		

3. 離職防止への対応

- 3.1 既存職員：部門間交換留学制度の導入により、やりがいの再発見を図る
- 3.2 新入職員：吉川SVによる1,3,6か月面談によるフォローにより、部門との認識ギャップを埋める

事業所名： 法人本部

	2023年度	2022年度	前年比
サービス活動収益計	—	—	—
人件費	51,308,620	46,053,707	111.4%
事業費	—	—	—
事務費	25,100,516	23,427,214	107.1%
サービス活動費用計	78,251,610	71,251,094	109.8%
サービス活動増減差額	—	—	—
利用料単価	—	—	—
延べ人数	—	—	—

成果	反省
①法人運営 ・ケアハウス（CH）の県による監査対応 ・災害BCP策定完了（全事業所） ・水口小規模多機能事業所の開設サポート ②地域貢献および事業所サポート ・認知症講演会および4年ぶりの夏祭り開催 ○本部として運営を全面的にサポート	①人材採用・定着・育成 ・新入職員のフォローアップが不足している ・全体研修はできているものの、個別対応が必要 次期管理者・主任候補の育成が課題 ②事業運営 ・赤字事業所の撲滅ができていない ⇒次年度に向けてフォローを継続する

事業所名： ちいろば食堂

物価高騰の中、食材の工夫などを行うことにより、昨年比較での単価低減を実現

	2023年度	2022年度	前年比
サービス活動収益計	—	—	—
人件費	27,002,038	27,072,198	99.7%
事業費	30,023,476	29,988,051	100.1%
事務費	563,983	1,488,536	37.9%
サービス活動費用計	57,589,497	58,548,785	98.4%
サービス活動増減差額	—	—	—
年間食数	100,192	99,778	414
利用者あたりの単価	575	587	△ 12

※利用者あたりの単価にはおやつも含む

成果	反省
①利用者満足度向上の取り組み ・朝礼での接客サービス用語の唱和による習慣化 ・ちいろば食堂人気メニューの創出および訴求 ・調理法のみならず提供方法（適温提供）の工夫 ②原価低減の取り組み ・食材の吟味と調理方法の再考と工夫 ○利用者満足職員満足ととらえる活動が効果を発揮	・徹底した食数管理故に調理数が不足することがあり、その対応の際に厨房内が混乱した ・事業所からの要望からのアクションとなってしまう。 ⇒ちいろば食堂主導での実施を目指す

事業所名： ケアハウス (CH)

平均入居者数前年増 (49.3⇒49.8人) により収益・増減差額共に前年増を達成

	2023年度	2022年度	前年比
サービス活動収益計	92,941,446	91,046,899	102%
人件費	42,543,654	39,593,252	107%
事業費	19,168,297	21,095,065	91%
事務費	7,393,362	12,212,614	61%
サービス活動費用計	76,802,634	81,532,734	94%
サービス活動増減差額	16,138,812	9,514,165	170%
空室日数	1	9	△ 8

成果	反省
①入居者の生きがいづくり ・自主活動を活発化させることによるコミュニティづくり ・行事の充実（個人対応から全体対応まで幅広く展開） ②長くお住まい頂くための支援体制の強化 ・小規模との連携強化（ショート利用や夜間見守り） ・職員の介入による早期のサービス利用	○認知症や介護に対して端境期の方が多いCHなのに、職員の知識・経験不足から対応しきれていない。 ⇒学びの機会の確保、学ぶ意識の育成 ○小規模への情報提供不足（在宅との違い・CHの生活の理解等） ⇒情報共有の機会の確保・相互理解 ○地域の方との交流不足

事業所名： ぼだいじデイサービスセンター虹

平均利用人数増 (19.6⇒27.4人) により収益・増減差額共に大幅な前年増を達成

	2023年度	2022年度	前年比
サービス活動収益計	73,258,564	59,548,618	123.0%
人件費	44,677,826	41,245,309	108.3%
事業費	9,705,377	8,646,619	112.2%
事務費	2,571,186	2,200,843	116.8%
サービス活動費用計	64,978,933	59,196,779	109.8%
サービス活動増減差額	8,279,631	351,839	2353.2%
利用料単価	8,756	8,938	△ 182
延べ人数	7,194	5,590	1,604

成果	反省
①受け入れ増の取り組み ・営業活動推進により、新たなCMからの利用者獲得 ・セレナ導入と運転手の単独送迎実現 ②利用者満足度向上の取り組み ・CHと協働での行事交流により、利用者交流が活性化 ・利用者アンケートに答えたプログラムの実施 ○支持が得られたことにより利用終了者の大幅な減を実現	①職員教育 ・主任不在により職員指導が行き届かなかった ⇒利用者獲得速度追い付かず、職員負担増

事業所名： デイサービスセンターいこい

収益、増減差額共に前年減。口腔活動や地域発信を通じて地域貢献を進める

	2023年度	2022年度	前年比
サービス活動収益計	61,845,960	62,003,926	99.7%
人件費	35,063,316	34,874,485	100.5%
事業費	4,687,370	4,835,896	96.9%
事務費	1,960,444	1,296,998	151.2%
サービス活動費用計	51,689,715	50,824,855	101.7%
サービス活動増減差額	10,156,245	11,179,071	90.9%
利用料単価	10,378	10,706	△ 328
延べ人数	4,624	4,839	△ 215

成果	反省
<p>①利用者受け入れ増の取り組み（認知度向上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症講演会を開催し、“いこい”の取り組みを発表 ・運営推進会議を通じ区長や民生委員とのつながり強化 <p>②利用者およびご家族の満足度向上の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生士による口腔チェックとご家族への情報共有 ・利用者の要望に応える外出レクの実現（カラオケ等） <p>○口腔ケアの外部発信活動を通じ利用者獲得につなげる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一般デイと認知症対応型デイの違いが浸透が課題。地域へのさらなる発信が必要。 ・ご家庭での家族の困りごとを解決することが難しく、ご利用者のショート利用が増加 ・認知症対応型としての専門性を高める活動が必要。職員全体の専門的な研修を実施していく

事業所名： 中央デイサービスセンターDSしんあい

コロナにより収益、増減差額共に減少も、地域からの支持をさらに強化。来年度に繋げる

	2023年度	2022年度	前年比
サービス活動収益計	38,382,307	40,705,461	94.3%
人件費	22,021,847	19,670,781	112.0%
事業費	3,454,024	3,915,126	88.2%
事務費	1,172,179	1,049,347	111.7%
サービス活動費用計	32,228,507	30,261,398	106.5%
サービス活動増減差額	6,153,800	10,444,063	58.9%
利用料単価	9,969	10,781	△ 812
延べ人数	2,970	3,040	△ 70

成果	反省
<p>①利用者受け入れ増の取り組み（認知度向上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学童利用の子供たちとのイベント開催 ・社協の依頼により、認知症の関わり方講座開催 <p>②利用者およびご家族の満足度向上の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域交流の強化し、役割と楽しみの創出 ・スタンドアップミーティングでの職員間での情報共有 <p>○強みである対外発信と連携を強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ発生により収支に大きな影響が出た ・外部居宅CMについて、新規が0の事業所が複数あった。→毎月訪問の実施 ・ショートステイ利用などで、ほとんど利用のない方について枠を抑えていた。→スポット利用へ変更し対応していく

事業所名： ぼだいじ居宅介護支援センター

要介護が要支援に落ちるケースが多発するなど逆風も、地域と法人内連携を加速

	2023年度	2022年度	前年比
サービス活動収益計	31,488,330	33,301,115	94.6%
人件費	27,095,283	24,490,184	110.6%
事業費	876,602	774,124	113.2%
事務費	1,470,236	1,334,257	110.2%
サービス活動費用計	33,318,731	30,233,416	110.2%
サービス活動増減差額	△ 1,830,401	3,067,699	-59.7%
利用料単価	12,847	13,450	△ 603
延べ人数	2,416	2,424	△ 8

成果	反省
<p>①地域貢献活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域つなげ隊（主任ケアマネージャー活動）活動参加 ・地域ケア会議参加 ・まちづくりセンター地域推進員とのつながり <p>②法人内連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼだいじみんなの家とのケアマネジメント共有 <p>○地域とのつながり及び法人内連携の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・要介護から要支援への移行した10名の補填ができなかった ・年度当初ケアマネージャーの増員に対して見合う給付管理件数を確保できなかった ・下期は2名の退職があり件数を振分け新規が増えなかった ・ケアマネジメント方法における個々のばらつきに対する標準化が必要

事業所名： ぼだいじヘルパーステーション (HS)

増減差額は減少も、収益が向上。DXを駆使して更なる成長につなげていく

	2023年度	2022年度	前年比
サービス活動収益計	65,257,349	59,985,050	108.8%
人件費	44,414,101	39,244,700	113.2%
事業費	1,610,072	1,323,043	121.7%
事務費	1,597,172	1,459,710	109.4%
サービス活動費用計	54,619,289	48,521,547	112.6%
サービス活動増減差額	10,638,060	11,463,503	92.8%
利用料単価	3,295	3,187	108
延べ人数	17,182	15,337	1,845

成果	反省
<p>①利用者確保の取り組み（認知度向上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報誌と利用可能情報を居宅事業所に配布 ・近労協において、HSの取り組みを発表 <p>②利用者満足度向上の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LineWorksを活用した職員及びご家族との情報共有 ・メンバー全員の排泄ケアの質の向上のスキルアップ <p>ODXにより関係者との情報共有と職員教育を強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・車の事故が続いた ⇒安全運転に対する意識向上を図る ・入院や入所が重なり利用者の伸びが鈍化した ・体調不良（腰痛）により休職した職員が出た ⇒ノーリフトケアの推進が必要

事業所名： グループホームぼだいじ

低空室率の実現により、高い増減差額を実現。数字に表れている活動を継続する

	2023年度	2022年度	前年比
サービス活動収益計	98,831,865	96,740,312	102.2%
人件費	57,555,267	58,370,100	98.6%
事業費	11,505,395	11,612,131	99.1%
事務費	3,817,279	3,599,938	106.0%
サービス活動費用計	86,827,576	88,042,713	98.6%
サービス活動増減差額	12,004,289	8,697,599	138.0%
利用料単価	8,119	8,818	△ 699
空室日数	87	245	△ 158

成果	反省
①利用者確保の取り組み ・関係機関との連携・広報および、SNSの定期発信 ②利用者満足と健康増進の取り組み ・歩行を日課とすることでの基礎体力の向上 ・ノーリフト推奨事業所として滋賀県社協から認定 ・徘徊保護訓練実施による、不備の洗い出し ○ケアの質向上により、低い空室率を実現	○空室の原因と対策 ・転倒による入院（63日） ・感染や慢性疾患による入院（20日） ・入退去による空室（4日） ⇒ショートステイによる空室活用（25日） 日々の体調変化による気づきをケアへ反映していくことが必要

事業所名： ぼだいじみんなの家（小規模多機能型居宅介護）

上期赤字が大幅改善。復活に向けて事業所内連携や組織構造改革を断行し、黒字を確保。

	2023年度	2022年度	前年比
サービス活動収益計	77,178,435	80,922,040	95.4%
人件費	53,963,548	54,019,048	99.9%
事業費	7,342,161	7,227,491	101.6%
事務費	2,383,357	1,519,584	156.8%
サービス活動費用計	75,360,807	74,683,243	100.9%
サービス活動増減差額	1,817,628	6,238,797	29.1%
利用料単価	218,202	195,127	23,075
延べ人数	299	299	0

成果	反省
①利用者確保の取り組み ・ぼだいじ居宅との連携 ・CHとの連携強化 ・職員教育による対応能力の向上 ②サービス適正化の取り組み ・地域連携により、過剰なサービスの適正化が図れた ○法人内連携の強化によるサービスの質が向上	・事業所内研修が開催により、認知症の理解と いった能力の向上を図る必要がある ・上期は新規獲得、小規模に見合ったサービスができていなかったため下期から改革を実施する

事業所名： グループホームみなくちみんなの家

増減差額が半減も、復活に向けた施策を打ち始めている

	2023年度	2022年度	前年比
サービス活動収益計	94,433,401	96,580,367	97.8%
人件費	63,530,048	59,059,816	107.6%
事業費	7,607,487	7,965,292	95.5%
事務費	3,375,168	3,238,490	104.2%
サービス活動費用計	87,901,467	83,763,858	104.9%
サービス活動増減差額	6,531,934	12,816,509	51.0%
利用料単価	8,904	8,906	△ 2
空室日数	386	141	245

成果	反省
①利用者確保の取り組み ・定期的な居宅当関係機関への営業活動 ②利用者及びご家族満足と健康増進の取り組み ・QC活動を通して歩行や体操の機会の増加 ・看取りケアの実施（2名） ・浴室へのリフト導入 ○空室日数の改善に向けた対応開始	・体調不良や転倒での入院が発生（空室364日） ・コロナ感染により家族との交流の機会減少 ・体を動かす機会が少なく、基礎体力が低下傾向 ・職員の力量に差があり、職員育成が求められる

事業所名： デイサービスセンターみなくちみんなの家

目標の1日平均8.5名（定員10名）を大幅に上回る9.2名を実現

	2023年度	2022年度	前年比
サービス活動収益計	31,112,399	28,126,286	110.6%
人件費	19,811,667	17,941,500	110.4%
事業費	2,767,569	2,368,066	116.9%
事務費	970,939	1,036,765	93.7%
サービス活動費用計	28,126,932	25,684,008	109.5%
サービス活動増減差額	2,985,467	2,442,278	122.2%
利用料単価	9,531	9,490	41
延べ人数	2,804	2,424	380

成果	反省
①利用者確保の取り組み ・水口居宅との連携強化によるスポット利用の増加 ・地域のパトロールや防災訓練、フェスティバルに参加 ・10月は稼働率100%を実現する ②利用者のご家族の満足度向上の取り組み ・ご家族の気持ちに寄り添う支援の継続 ・LSやGHへの移行支援により、みなくち事業所に貢献 ○利用者のご家族に寄り添う支援を継続実施	・子供を持つ職員の突発な休みに対応するのが難しく、一部の職員に負担が偏っている ・職員配置課題により研修受講が困難 ・パート職員の増員が必要

事業所名： ケアプランセンターみなくちみんなの家（水口居宅）

事業所2人体制となり、さらなるみなくち地区のサービス向上に貢献

	2023年度	2022年度	前年比
サービス活動収益計	7,363,077	4,131,534	178.2%
人件費	4,941,526	3,787,729	130.5%
事業費	515,306	228,730	225.3%
事務費	503,502	365,255	137.8%
サービス活動費用計	7,066,405	4,987,599	141.7%
サービス活動増減差額	296,672	△ 856,065	-34.7%
利用料単価	10,714	10,488	226
延べ人数	639	372	267

成果	反省
①利用者確保の取り組み ・水口包括との関係性の強化（新規以来の獲得） ・2人での営業活動推進 ②法人内連携 ・DSみなくちとの連携強化 ・みなくち小規模（LS）の立ち上げの為の移行支援 ○2人体制となり、地域や法人内での連携強化	・管理者が多くの利用者を抱えていたことで、管理業務全般がおろそかになった。 ・兼務ケアマネについて、兼務先の繁忙により育成が後手に回ってしまった。

事業所名： ライフサポートみなくちみんなの家（LS）（小規模多機能型居宅介護）

2023年12月1日に事業所開設。今後みなくち地区での在宅を守る砦としての役割を担う

	2023年度	2022年度	前年比
サービス活動収益計	20,156,324	0	—
人件費	17,029,138	2,110,407	—
事業費	7,959,804	0	—
事務費	2,263,826	492,493	—
サービス活動費用計	29,331,347	2,602,900	—
サービス活動増減差額	△ 9,175,023	△ 2,602,900	—
利用料単価	219,772	0	219,772
延べ人数	63	0	63

成果	反省
2023年12月1日に事業所開設 水口居宅やDSと連携することで、事業計画で示していた12名の登録でスタートすることができた。	・小規模経験者がおらず、教育が必要 ・職員不足により一部の職員に負担が集中した ・運営に精いっぱいとなっており、職員の教育が十分にできていない

事業所名： 訪問看護

前年2桁成長。地域に対する存在感が増している

	2023年度		2022年度		前年比	
サービス活動収益計	72,102,038		62,034,462		116.2%	
人件費	51,289,671		45,306,813		113.2%	
事業費	1,798,303		1,343,985		133.8%	
事務費	1,833,639		2,421,053		75.7%	
サービス活動費用計	61,842,007		55,131,676		112.2%	
サービス活動増減差額	10,260,031		6,902,786		148.6%	
利用料単価（介護・医療）	6,903	9,759	6,791	9,395	112	364
延べ人数（介護・医療）	5,908	3,134	5,697	2,235	211	899

成果	反省
<p>①地域・事業所貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フレイル予防教室を毎月開催。湖南省からの依頼あり ・CHやDSへのセラピスト派遣による健康増進サポート <p>②訪問看護事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・癌ターミナル等による医療保険利用者の増加 ・地域の医師との連携強化 <p>○地域貢献や連携により存在感を増すことができている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染によりスタッフが減少することあり ・介護が前年減となることがあった ・看護師スタッフの退職により、新規依頼を制限せざるを得ないことがあった <p>→安定した組織づくりを目指す</p>

事業所名： デイケアの家おしどり

機能訓練士が仲間に加わり、おしどりの活動の幅が広がることで、支持を得られている。

	2023年度		2022年度		前年比	
サービス活動収益計	55,739,470		55,764,247		100.0%	
人件費	32,970,491		34,201,300		96.4%	
事業費	5,488,405		4,831,501		113.6%	
事務費	1,803,156		1,907,689		94.5%	
サービス活動費用計	46,244,436		46,933,704		98.5%	
サービス活動増減差額	9,495,034		8,830,543		107.5%	
利用料単価	9,059		9,644		△ 585	
延べ人数	4,988		4,911		77	

成果	反省
<p>①利用者確保の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き情報の職員間共有による、問い合わせ対応力向上 ・居宅との連携強化 <p>②利用者のご家族の満足度向上の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活リハビリを利用者のニーズに結びつけられた ・機能訓練士の採用により、サービスの幅を広げられた <p>○職員の能力向上及び機能訓練士の活躍による特徴訴求</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活リハや遊びりテーションの意味付けをしっかりと行っていく ・計画性に欠けることがあり、行事予定を利用者やご家族に伝えられていないことがあった ・職員間の情報共有に不足があり、スポット利用の方の対応を周知できていないことがあった

事業所名： ゆめとまの家おしどり

昨年黒字からの赤字転落も、新しい活動が実を結びはじめている

	2023年度	2022年度	前年比
サービス活動収益計	21,207,601	24,182,428	87.7%
人件費	16,221,928	17,218,595	94.2%
事業費	2,668,165	2,961,792	90.1%
事務費	1,298,039	1,313,329	98.8%
サービス活動費用計	22,396,522	24,017,644	93.3%
サービス活動増減差額	△ 1,188,921	164,784	-721.5%
利用料単価	7,957	8,986	△ 1,029
延べ人数	2,228	2,382	△ 154

成果	反省
①利用者確保の取り組み ・居宅への実績訪問と営業活動（毎月）の継続 ・居宅やご家族とのより密な連携の推進 ②利用者のご家族の満足度向上の取り組み ・週3回の食事作りが、利用者の満足につながっている ・Go活動として、生活支援や外出の機会の実現 ○Go活動が地道な営業活動により浸透し始めている	・活動が計画的にできていなかった ・ブログやSNSによる对外発信が少ない ・畑などの活動に対し、利用者やご家族といった関係者へのやりがいなどの価値創出の表現が求められる ・要支援の登録の約3%→15%と増えたこと、介護度が下がったことで単価が下がっている